

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

JSA ソフトボール

2025年/令和7年

第480号

1・2月合併号
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290



女子TOP日本代表チームヘッドコーチ就任記者会見 (2024.12.23/東京都新宿区)

C o n t e n t s

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| ・ニトリ JD.LEAGUE 2024 個人表彰2 | ・第33回全日本実年大会12 |
| ・第57回日本女子リーグ 個人表彰4 | ・2024シーズン無事終了！ |
| ・第53回日本男子リーグ 個人表彰6 | 新たなシーズンへの取り組みは始まっている14 |
| ・日韓ジュニアスポーツ交流事業(チーム派遣)8 | ・令和6年度第8回理事会議事録16 |
| ・女子U15日本代表レポート10 | ・事務局だより20 |

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

ニトリ JD.LEAGUE 2024 個人表彰



★最高殊勲選手賞★

〔東地区〕 藤森 捺未（日立 サンディーバ）

〔西地区〕 三輪さくら（シオノギ レインボーストックス兵庫）



華やかに !!

◆2024シーズン 個人表彰一覧◆

【東地区】

◎最優秀防御率賞	ジョージナ・コリック	(戸田中央 メディックス埼玉)	防御率1.28
◎最多勝利投手賞	増田 侑希	(戸田中央 メディックス埼玉)	10勝
◎首位打者賞	藤森 捺未	(日立 サンディーバ)	打率.476
◎最多本塁打賞	藤田 優	(ビックカメラ高崎 ビークイーン)	11本
◎最多打点賞	坂本 結愛	(戸田中央 メディックス埼玉)	31打点
◎最多盗塁賞	川村 莉沙	(デンソー スライトペガサス)	22盗塁
◎ベストナイン	・投手	ジョージナ・コリック	(戸田中央 メディックス埼玉)
	・捕手	坂本 結愛	(戸田中央 メディックス埼玉)
	・一塁手	大川 菜由	(ホンダ リヴェルタ)
	・二塁手	鈴木 鮎美	(戸田中央 メディックス埼玉)
	・三塁手	木村 愛	(ホンダ リヴェルタ)
	・遊撃手	工藤 環奈	(ビックカメラ高崎 ビークイーン)
	・外野手	藤森 捺未	(日立 サンディーバ)
		藤本 麗	(ビックカメラ高崎 ビークイーン)
		平田 唯花	(日立 サンディーバ)
	・指名選手	藤田 優	(ビックカメラ高崎 ビークイーン)
◎新人賞	・投手	新宮 怜美	(ホンダ リヴェルタ)
	・野手	笠原 朱里	(日立 サンディーバ)

【西地区】

◎最優秀防御率賞	後藤 希友	(トヨタ レッドテリアーズ)	防御率0.52
◎最多勝利投手賞	三輪さくら	(シオノギ レインボーストークス兵庫)	19勝
◎首位打者賞	竹中 真海	(豊田自動織機 シャイニングベガ)	打率.381
◎最多本塁打賞	加藤 愛夢	(シオノギ レインボーストークス兵庫)	8本
◎最多打点賞	マケナ・スミス	(豊田自動織機 シャイニングベガ)	23打点
◎最多盗塁賞	竹中 真海	(豊田自動織機 シャイニングベガ)	17盗塁
◎ベストナイン	・投手	三輪さくら	(シオノギ レインボーストークス兵庫)
	・捕手	エリカ・ピアンカステリ	(SGホールディングス ギャラクシースターズ)
	・一塁手	加藤 愛夢	(シオノギ レインボーストークス兵庫)
	・二塁手	沢 柚妃	(日本精工 スレイスベアリーズ)
	・三塁手	澤田 望愛	(トヨタ レッドテリアーズ)
	・遊撃手	竹中 真海	(豊田自動織機 シャイニングベガ)
	・外野手	中川 彩音	(SGホールディングス ギャラクシースターズ)
		山田 柚葵	(トヨタ レッドテリアーズ)
		中村みなみ	(シオノギ レインボーストークス兵庫)
	・指名選手	マケナ・スミス	(豊田自動織機 シャイニングベガ)
◎新人賞	・投手	山下 千世	(豊田自動織機 シャイニングベガ)
	・野手	矢藤輝羅菜	(日本精工 スレイスベアリーズ)

◎Most Wow! Player of the Year

年間5回受賞…山口未葵 (ホンダ リヴェルタ)、坂本実桜 (日立 サンディーバ)、
坂本結愛 (戸田中央 メディックス埼玉)、山田柚葵 (トヨタ レッドテリアーズ)、
加藤愛夢 (シオノギ レインボーストークス兵庫)

◎JD.LEAGUE 特別表彰

ステーシー・ポーター (SGホールディングス ギャラクシースターズ) ※通算300安打達成!

◎Wow! Experience賞

上野由岐子 (ビックカメラ高崎 ビークイーン)、坂本実桜 (日立 サンディーバ)、
望月朱里 (SGホールディングス ギャラクシースターズ)

第57回日本女子リーグ 個人表彰

高
田
香

M
V
P



★最高殊勲選手賞★
高田 香（VONDS 市原）



さらなる飛躍を !!

◆2024シーズン 個人表彰一覧◆

◎優秀選手賞

・投手 (P)	高田 香	(VONDS市原)	8勝2敗	防御率0.42
・投手 (S)	栗原ななみ	(花王コスメ小田原 フェニックス)	3勝3敗	防御率0.66
・捕手 (P)	井上 葉菜	(静甲)	打率.348	
・捕手 (S)	林 佑奈	(Citrine Ichinomiya)	打率.333	
・DP (P)	行武 唯華	(平林金属 Peachblossoms)	打率.318	
・DP (S)	領家 妃奈	(MORI ALL WAVE KANOYA)	打率.280	
・野手 (P)	東郷 佑実	(YKK)	打率.487	
	宮坂 佑希	(YKK)	打率.343	
	植村 華	(平林金属 Peachblossoms)	打率.361	
	塚本 楓花	(VONDS市原)	打率.294	
	半田 由佳	(静甲)	打率.326	
・野手 (S)	原野 柚希	(大和電機工業)	打率.405	
	上原 彩瑛	(大和電機工業)	打率.387	
	宮本 星南	(Citrine Ichinomiya)	打率.400	
	福元 果葉	(小泉病院 Blue Arrows)	打率.458	
	堤 万己	(ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校)	打率.353	

(P) : プラチナセクション

(S) : サファイアセクション



第53回日本男子リーグ 個人表彰

ジャック・ベスグローブ（ダイワアクト）

★最高殊勲選手賞★



M
V
P

「世界 No.1 サウスポー」
本領発揮 !!

◆2024シーズン 個人表彰一覧◆

◎最優秀防御率賞	ジャック・ベスグロース	(ダイワアクト)	防御率0.55
◎最多勝利投手賞	ジャック・ベスグロース	(ダイワアクト)	12勝
◎首位打者賞	浜本 悌	(平林金属)	打率.414
◎本塁打王	佐藤 光希	(トヨタ)	9本
◎打点王	佐藤 光希	(トヨタ)	19打点
◎盗塁王	川島 大空	(Honda)	16盗塁
◎ベストナイン賞			
・投手	ジャック・ベスグロース	(ダイワアクト)	12勝2敗 防御率0.55
・捕手	米野 智陽	(旭化成)	打率.345
・一塁手	松尾 翔輝	(デンソー)	打率.390
・二塁手	八角光太郎	(平林金属)	打率.408
・三塁手	宮本 海斗	(豊田自動織機)	打率.383
・遊撃手	大川 竜志	(ジェイテクト)	打率.357
・外野手	浜本 悌	(平林金属)	打率.414
	小島 聖矢	(平林金属)	打率.372
	坂田 大士	(Honda)	打率.405
・指名選手	古橋 和也	(日本エコシステム)	打率.333



日韓ジュニアスポーツ交流事業

（ソフトボール競技／チーム派遣）

令和6年11月9日（土）～14日（木） 韓国・釜山



昨年11月9日（土）～14日（木）、「日韓ジュニアスポーツ交流事業 ソフトボール競技」（チーム派遣）が実施された。これは昨夏8月2日（金）～7日（水）、「日韓ジュニアスポーツ交流事業 ソフトボール競技」（チーム招待）の実施を受けて行われたもので、アジア近隣諸国とのスポーツ交流を促進し、両国の友好親善と競技力向上を目的に「相互派遣方式」で実施されている。2001年の「第1回」から今回で21回目を数え、2019年の開催の後、コロナ禍もあり、2020年～2022年の3年間「中止」を余儀なくされ、開催を見合わせてきたが、一昨年（2023年）ようやく「再開」された。

従前は、9月初旬にまず日本チームが韓国を訪問。これを受け、11月に韓国チームが来日するのが「通例」であったが、2019年から韓国チーム（女子U18代表チーム）が先に来日し、「日本代表チーム」が11月に韓国を訪問するパターンに切り換えられ、今回は前述の通り8月2日（金）～7日（水）、「チーム招待」事業を実施。韓国女子U18代表チームが来日し、今春の「第42回全国高等学校女子選抜大会」の優勝チームである多治見西高等学校が「日本代表」として「ホストチーム」を務め、群馬県高崎市で「チーム招待」



事業を行った。

今回はそれを受けての「チーム派遣」事業の実施となり、「チーム招待」でホストチームを務めた多治見西高等学校が「日本代表」として韓国へ派遣されることになった。

この「交流事業」開始当初は、韓国側の指導者が野球出身の指導者であることが多く、当時は日本以上の「野球先進国」であるとの「プライド」もあり、親善交流試合で大差で敗れることが続いてもソフトボールクリニック等は頑として受け付けず……。それでも日本から韓国に帰化し、「韓国代表」として活躍するような選手が現れ、現役引退後、「指導者」となって日韓の橋渡し役となってくれたことで、現在では日本の指導者を韓国代表チームの監督・コーチに招聘するまでに至っている。

今回も親善交流試合の実施よりも、日本の練習方法、トレーニング方法を学びたい、日本の高いソフトボール技術・戦術を取り入れたいと技術指導に割く時間を増やし、「日本代表」上松美香子監督の「熱血指導」を受ける等、「うまくない!」「強くなりたい!!」という意欲的な姿勢が双方からヒシヒシと伝わる実りある交流となった。

**日韓ジュニアスポーツ交流事業
(チーム派遣)の詳報は「こちら」**

女子U15日本代表レポート



第2回女子U15アジアカップ・ワールドカップ 日本代表16名を選出

昨年12月2日（月）～4日（水）の3日間、静岡県伊豆市／天城ドームを主会場に「令和6年度女子U15日本代表チーム選手選考会（2025第2回女子U15アジアカップ・第2回女子U15ワールドカップ出場選手選考会）」が開催された。

選考会には、「選考会参加条件」をクリアし、各都道府県支部の推薦を受けた94名が参加。「第2回女子U15アジアカップ」「第2回女子U15ワールドカップ」に出場する「日本代表」16名の座をめざし、「狭き門」となる厳しい選考に挑んだ。

今回の選考会の対象となる「第2回女子U15アジアカップ」（※大会派遣期間…2025年3月23日～3月31日、大会日程…3月26日～30日／台湾で開催予定）が「都道府県対抗全日本中学生大会」と日程が重なっており、「日本代表」に選出された場合には、「都道府県対抗全日本中学生大会」には出場できない……という難しい選択を迫られた。

それでも……94名もの選手たちが「日本代表」の座をめざし、集い、競ってくれた。

選考会終了後、すぐに選考会議を実施し、代表候補選手16名を決定。（公財）日本ソフトボール協会理事会の承認を経て、このほど正式に発表された。



[選考会の動画はこちら](#)



[選考会詳細レポートはこちら](#)

令和6年度 女子U15日本代表チーム (第2回女子U15アジアカップ・ワールドカップ出場選手)

【選手】(ポジション別50音順)

《投手》

北村 葉琉(東海大学菅生高等学校中部部)
高原樹梨亜(ニューリバーソフトボールクラブ)
永田 藍(鹿児島チェリーブロッサム
ソフトボールスポーツ少年団)
中村 咲耶(薩摩フェアリーズ)

《捕手》

川合 瑠香(東海大学菅生高等学校中部部)
寺園 美空(明石Pクラブ)

《内野手》

齋藤 ゆず(郡山レディースSBC)
鈴木 一瑚(ブラウドSC)
東山 珠那(福岡レッドドリームズ)
港 良米(草津Smiley)
望月美桜華(Bluestar)
山本 優依(東海大学菅生高等学校中部部)

《外野手》

須崎 結(神田女学園中学校)
ソゴバ華羽(神田女学園中学校)
戸塚すみれ(Genkiclub)
増田 莉緒(神田女学園中学校)

【コーチングスタッフ】

《ヘッドコーチ》

山本 優(札幌Futures)

《アシスタントコーチ》

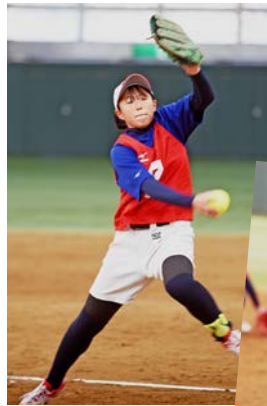
榎本 千波(デンソー)
椿 太郎(米子市立東山中学校)

《マネージャー》

山本かな(京都市立伏見中学校)

《トレーナー》

高松久美子(ENISHI BODY DESIGN)



第33回全日本実年大会

令和6年12月7日（土）～9日（月） 福岡県北九州市ひびきコスモス運動場
記録提供：福岡県協会記録委員会



取手インディアンズ（茨城）

初の頂点へ

本大会は当初、昨年8月31日（土）～9月2日（月）の3日間、大分県大分市を舞台に開催される予定であったが、一昨年に続き今回も台風10号の接近により開催直前での中止を余儀なくされ、「代替大会」として実施。同年12月7日（土）～9日（月）、福岡県北九州市で開催されることとなった。



福岡県協会の協力・尽力もあって代替大会を開催することができた

大会には当初48チームが参加予定となっていたが、開催地・開催日の変更により、残念ながら8チームが出場を辞退（出場辞退によるペナルティは無し）。この代替大会には40チームが集結し、「実年カテゴリー」（50歳以上の男子）の頂点をめざして、熱戦を繰り広げた。

最終日のベスト4には、薩摩十の字丸SC（鹿児島）、取手インディアンズ（茨城）、愛港クラブ（愛知）、大阪吹田クラブ（大阪）が勝ち上がり、「日本一」をかけた最終決戦に挑んだ。

〈準決勝〉 薩摩十の字丸SC 0-5 取手インディアンズ

取手の「エース」石川恒が力投！
完封で決勝の切符をつかんだ！



後攻の取手は初回、一死から四球の走者が出塁すると、3番・塩津貴久郎、4番・倉持和隆の長短打で2点を先取。さらに3回裏にもこの回先頭の1番・根橋貴文、2番・山下拓の連打と四球等で二死ながら満塁と攻め立て、代打・中島博之の右中間を破る適時二塁打で走者を一掃し、3点を追加。5-0とリードを広げた。

投げては、エース・石川恒が薩摩打線をわずか3安打に抑え、完封勝利。初優勝に王手をかけた。

〈準決勝〉 愛港クラス 5-6 大阪吹田クラス

吹田は2回裏、この回先頭の5番・真鍋健治のレフトスタンドに突き刺す本塁打と、8番・増田浩之、9番・黒杉聡、1番・新田功の3連続長短打で3点を先制。

愛港も直後の3回表、この回先頭の8番・前田賢一の右前安打と連続四球で無死満塁のチャンスを作り、次打者のサードゴロで三塁走者が本塁フォースアウトとなったが、暴投で1点を返し、なお二・三塁のチャンスが続き、3番・森義見の三塁線を抜く適時打で二者が生還。さらに4番・越口博の二遊間安打で一・三塁とし、5番・前田充男の左中間を破る適時二塁打で三塁走者が還り、一挙4点を奪い、逆転に成功した。勢いに乗る愛港は続く4回表にもこの回先頭の8番・前田賢一が四球で出塁し、相手守備の隙をつき、そのまま二塁を陥れると、次打者のファーストゴロの間に三塁へ進み、二死後、2番・小山田秀人の左前適時打で生還。この回1点を追加。5-3とリードを広げた。

しかし、2点を追う吹田は6回裏、連続四球とピッチャーゴロで一死二・三塁とし、さらに1番・新田功も四球で歩き満塁の逆転機をつかむと、2番・川口晃正が左中間へ走者一掃の適時三塁打を放ち、逆転！この時点ですでに制限時間を超えており、ゲームセット。劇的なサヨナラ勝ちで決勝進出を決めた。



吹田は真鍋健治の本塁打等で先制したが……

《決勝》 取手インディアンズ 13-8 大阪吹田クラス

大会記録の最長試合時間更新となる2時間56分に及ぶ死闘となった決勝は、激しい点の奪い合いとなった。

後攻の吹田は初回、1番・新田功がレフトへ二塁打を放ち出塁すると、犠打で三塁へ進塁。二死後、4番・中田健一の左前適時打で還り、先制点を挙げた。2回裏にも一死から、四球、内野安打で一・二塁とし、重盗で二・三塁とチャンスを広げると、2番・川口晃正の適時二塁打で二者が生還。次打者のセカンドゴロで二死三塁とし、4番・中田健一の適時二塁打でもう1点を加えた。

4点を追う取手も3回表、安打、犠打で一死二塁とし、1番・根橋貴文、2番・山下拓の連打で満塁のチャンスをつかむと、次打者の四球で押し出し。なお一死満塁の好機が続き、4番・倉持和隆が左中間へ逆転の満塁本塁打！この回一挙5点を奪い、逆転に成功した。

その裏、吹田が4四球と8番・増田浩之の適時二塁打等で勝ち越し、再びリードを奪い返せば、直後の4回表、取手も3番・塩津貴久郎の適時二塁打で再逆転。さらに、6回表にも4番・倉持和隆の2点本塁打と二者連続の押し出し四球で4点を加え、11-6と取手が5点のリードを奪った。

取手は1点を返され迎えた最終回にも、四球で出塁した走者が暴投で二塁へ進み、一死後、5番・石川恒のライトへの安打にエラーが絡み、二塁走者に続き、打った石川恒までもが生還。この回2点を追加し、優勝をグッと引き寄せた。

その裏、吹田の必死の反撃を1点に抑え、両チーム合わせて24安打が飛び交う乱打戦に13-8で勝利。取手が初の栄冠を手にした。



グラウンドスラムを含む2本塁打・6打点と大活躍！
優勝に貢献した取手・倉持和隆が大会MVP!!

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本ソフトボール協会オフィシャルHPで

2024 シーズン無事終了！



新たなシーズンへの取り組みは始まっている

2024シーズンは昨年12月7日（土）～9日（月）、福岡県北九州市で代替開催された「第33回全日本実年大会」の無事終了をもって「一区切り」となり、「年度」でとらえても「全日本大会」はオフシーズン開けの3月、春季全日本小学生男子・女子大会、都道府県対抗全日本中学生男子・女子大会、全国高等学校男子・女子選抜大会を残すのみとなった。

一方、来シーズンへ向けた取り組みも着々と進められており、2025年度版の「オフィシャルソフトボール」競技者必携の修正・改訂作業をはじめ、「JDリーグ・日本女子リーグ」を担当する審判員の選考会（**詳報は（公財）日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ参照**）、第1種公認審判員・第1種公式記録員認定会が全国各地で開催され、それに続く第2種・第3種の認定会・講習会も各プロツク・各都道府県で実施されている。

全国トップレベルをめざして資格取得に励む者、あるいは「日本」という枠を飛び越え、「世界」の舞台をめざす者、新たな審判員・記録員の「仲間」を増やそうと各都道府県で、あるいは市町村で懸命の努力を続ける者……選手・チームが「世界」の舞台をめざし、「日本一」の座を狙うように、大会を支える皆さんも日夜努力を続けている。

審判ルール委員会、JD.リーグ・日本女子リーグ審判員選考会



記録委員会、第1種公式記録員認定会



令和6年度 第8回理事会議事録

審議に先立ち、本理事会は会場集合方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認。理事25名中出席19名（欠席6名）、監事出席3名で定款第36条に基づき本理事会は成立することが確認された。

●審議事項

第1号議案

事務局人事選考委員会 報告・提案事項

牧島会長より、次期事務局長だけではなく、事務局の仕事の在り方等を検討するため、事務局人事検討委員会を設置し、調査。その上で検討を重ね、一定の結論を得て次のような提案をするに至った。

（1）本日付で矢端事務局長は退任。新事務局長には緊急的措置として非常勤のまま、岡本専務理事が兼任で事務局長の職にあたる。

（2）事務局長兼務となる岡本専務理事には、役員等報酬規程を改正し、「非常勤事務局長兼任手当を新設・支給する。併せて役員報酬規程に「弁護士、公認会計士その他の公的資格を有する外部理事・外部監事が専門職としてタスクフォースに従事している場合についてのみ「業務執行手当」を新設し、支給するものとする（役員等の報酬規程改定の効力発生は10月1日に遡及する。理事会承認の後、臨時評議員会を開催し、承認を得る必要がある）。

（3）矢端氏には早急にHPD（ハイパフォーマンスディレクター）職に専念してもらい、JSA（公益財団法人日本ソフトボール協会）事務局内に席を残さず、HPDとJSAのカウンターパートとして岡本専務理事兼事務局長を配置し、対応するものとする（※カウンターのパートとは、HPDに対応するJSAの日常的な窓口であり、事務局員として、HPDの活動を連携・支援する者である。JSAの業務計画や予算・決算（補助金及び自主財源の管理を含む）にHPDからの要請を反映させ、予算執行を管理し、事務局職員に対し、関連事務を指示できる者とする）。

以上が提案され、審議の結果、第1号議案は原案通り承認された。

第2号議案

総務委員会提案・報告事項 について

瀬戸山常務理事・総務委員長から、次の3点が提案された。

（1）全日本大会参加費改定

総務委員会で検討の結果、各種経費値上げに伴う開催地の運営負担軽減のため大会参加費を一律1万円UPする案が示されたが、12月の財務委員会で改めて議論することとなった。

（2）チーム登録規程の改定

シクミネット完全導入に向け、チーム登録方法の文言を整理する。

（3）その他

小・中・高種別の合同チーム参加について夏季大会より認めることとする。ただし、ユニフォームナンバーが重複

期日…令和6年11月24日（日）

13:00～14:45

場所…東京都新宿区/Japan

Sport Olympic

Square及びインターネット

会議方式併用

理事現在数…25名

出席理事…19名

欠席理事…6名

出席監事…3名

議長…会長 牧島かれん

しないこととする。

併せて次の3点について報告された。

（1）令和7年度全日本大会日程案。

（2）令和8・9年度全日本大会開催地区割当。

（3）小学生の投球距離変更に伴う塁間の変更は、総務委員会各委員による実地検証の結果、数値にほとんど差異がなかったことから塁間変更は行わないことを再確認。

また、「男子競技種別のピッチクロック導入」「チーム登録におけるコーチの人数」「学生大会を除く開会式の免除」「全日本大会地区割当の順序明確化」以上については、慎重な審議・

検討、対応が必要なため、**継続審議**となり、「全日本大会における派遣役員について」は常務理事会で確認されたことが報告された。

試合のスピードアップについては、今後、具体的な検証を進め、先進事例として社会人野球のピッチクロック導入事例も参考に研究・検証作業を進めていくことが確認・了承された。

審議の結果、第2号議案については原案通り**承認**。また、その他の**継続審議**となった事項についても鋭意取り組んでいく方針であることが確認された。

第3号議案 リーグ委員会提案事項

西常務理事・リーグ委員長から、2025年度日本男子ソフトボールリーグ・日本女子ソフトボールリーグの大会日程及び開催地が提案され、併せて「日本男子ソフトボールリーグ規程」の「第2項 構成について」が現行では17チームとなっていることから、18チームに変更する提案（リーグ新規加盟条件を満たしている**安川電機（福岡）のリーグ加盟が新たに認められた**ため）がなされ、審議の結果、第3号議案は原案通り**承認**された。

第4号議案 指導者委員会提案事項

岩崎理事から、公認指導者規程改正について、次の2点が提案された。

（1）次年度（令和7年度）から「国民スポーツ大会」に加えて「日本スポーツマスターズ大会」の監督又はコーチは公認ソフトボールコーチ以上の資格保有が必要であることを明文化。

（2）学生種別における監督又はコーチの保有資格についてスタートコーチが「×」となっていたが、高校種別は可、また大学種別でも監督が大学生の場合に限りスタートコーチも可のため「○」に変更。ただし、大学は学生以外が監督をする場合は不可とする。

以上が提案され、審議の結果、第4号議案は原案通り**承認**された。

第5号議案 2025オフィシャルソフトボール ルール改正案

神谷常務理事から、2025オフィシャルソフトボールルール改正案について提案され、ルール改正を予告して

いた小学生の投球距離（本塁から投手板までの距離）が12・19mに変更となること等が改めて確認され、今年度は隔年開催の「全国審判員・記録員中央研修会」が開催されないこともあって、文章表現の統一や文言の整理、誤字・脱字の修正等、ルールの解釈や適用の変更等生じない範囲の軽微な修正に留め、大きなルール改正は行っていないことが説明された。

以上の提案理由等についての説明を受け、審議の結果、第5号議案は原案通り**承認**された。

第6号議案 テクニカルコミッショナー （TC）部会提案事項

欠席の宇津木妙子副会長の提案について、担当事務局から、11月4日に開催された「テクニカルコミッショナー部会」議事録を基に、次の2点が提案された。

（1）日本国内でのTC設置 について

J.D.リーグにおける「ラウンドディレクター」が行ってきた仕事はまさにTC（テクニカルコミッショナー）の仕事

と合致する。J.D.リーグは来年度から「ラウンドディレクター」を廃止。その役割を各開催地協会に担うことになる。国内での認知を高めることと、人材を増やすことを目的としてJ.D.リーグ一部開催地に対し、来年3月までにリモートでTC説明会を実施し、国内にいる国際TCメンバー3名が協力し、その役割や具体的な業務を説明していく。また、4月以降に近郊で開催されるJ.D.リーグで試験的に「ラウンドディレクター」に代わり、新規TCとして現地入りし、試合監修と運営を地元協会とともに実行する。

（2）国際TCの育成

国際TC発掘のため、英語に堪能な国際審判員や記録員に声掛けし、2026年のアジア競技大会に合わせてより多くの人材を発掘・育成していく。

以上が説明・提案され、審議の結果、第6号議案は原案通り**承認**された。

第7号議案 2026愛知名古屋アジア大会 テクニカルオペレーション マネージャー推薦について

岡本専務理事から現在2026愛知

名古屋アジア競技大会のソフトボール競技テクニカルオペレーションマネージャーには栗山利宏氏が従事しているが、第6回理事会で承認された通り、栗山氏をスポーツツーマネージャーとすることが決定していることから、テクニカルオペレーションマネージャーとして豊田自動織機・阿南恵子氏を新たに推薦することが提案され、第7号議案は原案通り承認された。

第8号議案
JD・リーグからの提案事項について

岡本専務理事から、11月8日のJD・リーグ機構との協議結果を基に、次の提案がなされた。

（1）来年度登録料及び運営料については令和6年度据え置き。

（2）ニトリとのスポンサー契約満了に伴い次年度以降はJSA・女子TOP日本代表とのコラボを条件に年間3千万円での契約更新の打診あり、比率はJSA3…JD・リーグ7の予定。

（3）JSAとの連携及び経費削減目的に、JD・リーグ事務局を令和7年4月中旬からJSA事務局内に移転し、

常勤事務局員は5名程度となる。

以上が提案・説明され、家賃・事務所使用料等について詳細は今後協議の上、詰めていく必要があるものの、大筋では受け入れざるを得ない状況にあることから、第8号議案は原案通り承認された。

第9号議案
JOC役員改選について

岡本専務理事より、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）役員候補者の推薦に関する文書が届いていることが説明され、現理事の任期が令和7年6月の評議員会終結時までであり、引き続き自身を理事候補者として推薦して良いか可否が問われ、第9号議案は原案通り承認された。

第10号議案
倫理・コンプライアンス委員会提案事項

岡本専務理事から、倫理・コンプライアンス委員会で検討した2案件に対し、処分内容を説明。

これまでの委員会で事実認定を行い、常務理事会で確認し、理事会の最終承認を得る、という流れが再確認された。

また、その上で委員会での事実認定に対し、対象者本人に弁明の機会を与え、最終的な事実認定を行い、理事会で最終承認というプロセスがキチンと行われていることが確認され、第10号議案は原案通り承認された。

今後、理事会に最終決定の権限がある以上、非常にデリケートな内容ではあるものの、理事会としての共通理解・共通認識が得られるような手続きを取ることで併せて確認・了承された。

第11号議案
新意匠ゴムボール製作に伴う検定基準の改定について

新意匠球への移行に伴う検定基準等の改定について提案があり、原案通り承認された。

第12号議案
選手強化本部提案事項

松田常務理事・選手強化本部長から、女子U15アジアカップ派遣日程及びスタッフについて提案された。

【開催地・派遣先】
台湾
【大会日程】

令和7年3月26日～30日
【派遣日程】
令和7年3月23日～31日

【コーチングスタッフ】
・ヘッドコーチ
山本 優（札幌Futures）

・アシスタントコーチ
榎本千波（デンソー）
椿 太郎（米子市立東山中学校）

・マネージャー
山本 かな（京都市立伏見中学校）
・トレーナー
高松久美子（エニシボデザイン）

本チームの選手選考会は12月2日～4日に実施し、通常であれば選考結果については来年1月の理事会で報告することになるが、大会のエントリーやバスポート取得、都道府県対抗全日本中学生大会の選手選考を考慮し、スピード感を持って手続きを先行して行っていくことが提案・了承された（選手選考会詳細・選考結果はこちら）。

また、本大会で出場権を獲得できればワールドカップに出場することになるが、詳細は決定していない（現時点

ではイタリアにて7月開催予定）ことが説明された。

以上の提案・説明を受け、審議の結果、第12号議案は原案通り**承認**され、付随事項についても了承された。

第13号議案

日本協会年賀状の廃止について

岡本専務理事から、毎年250枚程度出している日本協会の年賀状を、郵便料金の値上げもあり、作成・送付の手間もかかることから廃止することが提案され、第13号議案は原案通り**承認**された。

第14号議案

生涯種別の複数登録における個人登録料免除の解除

岡本専務理事から、令和7年度より生涯種別の複数登録における個人登録料免除の解除について、次のように提案された。

◎実際に重複が1万5千名程度あり、約1千500万円程度の登録料を逸失している計算となり、日本協会の非常に厳しい財政状況を鑑み、令和7年度から免除を解除する。

以上が提案され、審議の結果、第14号議案は原案通り**承認**された。

第15号議案

女子TOP日本代表チームヘッドコーチ選考について

本件に関する担当責任者であるHPD・矢端氏が選考の経緯を説明（その間に、本議案の選考当事者である宇津木麗華副会長は一時退出）。

経緯説明の後、牧島会長より、3名の応募があり、個々のプレゼンの内容を精査し、独自性、具体性、総合力を鑑みて宇津木麗華氏の再任を決定したとの報告がなされた。

このことについて、磯谷常務理事より、選考基準の内容について質問があり、牧島会長より基準の詳細について回答され、審議の結果、第15号議案は原案通り了承された。

●報告事項

1. 各委員会・プロジェクト報告

(1) リーグ委員会

西常務理事・リーグ委員長から「第

2回リーグ委員会」議事録を基に、委員会討議事項の詳細が報告された。

(2) 指導者委員会

岩崎理事から委員会議事録等が配布され、配布資料の通りの内容で委員会が開催されたことが報告された。

2. JSPO理事について

岡本専務理事より、先ほどJOC理事について自身を推薦することを承認していたのだが、新たにJSPO（公益財団法人日本スポーツ協会）からも推薦依頼が来ており、こちらについては次回理事会で諮らせていただきたいとの報告があった。

その他

(1) ビッチクロックについて

木田理事より、今年度男子インカレでビッチクロックを導入し、全試合の試合時間のデータを取っており、昨年と比較し、試合時間の平均は短縮されており、優位差が認められるものの、標準偏差が非常に大きいため、ビッチクロックが時間短縮に寄与したと結論づけることは今のところできていない

との報告があった。

(2) 来年6月の評議員会について

杉本理事より、役員改選後、初めての評議員会になるのでできるだけ現場に来て顔を合わせて開催していただきたいとの要望が出された。

これに対し、岡本専務理事から2月の定時評議員会、6月の定時評議員会ともにハイブリッドでの開催とする方向性であることが説明された。

これに付随し、鈴木常務理事より毎回評議員会では残念ながら発言が少ないので9ブロックの中でそれぞれ代表を決め、評議員会の席上で必ず意見や要望を出すよう促してはどうかとの意見が出された。

最後に本日をもって事務局長職を退任する矢端氏から退任の挨拶があり、在任期間の支援・協力に謝辞が述べられ、牧島会長から事務局長兼任となる岡本専務理事を中心に、事務局体制を立て直し、「アスリートファースト」「すべてはソフトボールのために」の原点に立ち返った協会運営・組織運営を実現すべく、ともに努力していくことが理事全員で確認され、閉会した。

事務局だより

「世界」の喜びをともに！

J.D. LEAGUE AWARDSにて、
女子TOP日本代表がWC優勝を報告



昨年12月5日、東京都新宿区において開催された「J.D. LEAGUE AWARDS 2024」（※表彰式の様子・表彰者一覧は本誌P2・P3にて掲載）に併せて、「WBSOソフトボールワールドカップ金メダル獲得報告会」も催され、「10年ぶり」にワールドカップ王座へ返り咲いた女子TOP日本代表チームが登場。会場に招かれた受賞選手・チーム関係者らと改めて「世界」の喜びを分かち合った。

「WBSO第17回女子ワールドカップファイナルステージ」は昨年7月15日～20日、イタリア・カステイオンスデイストラダを舞台に熱戦展開。女子TOP日本代表はオーストラリア・グループBを3戦全勝の1位で通過。スーパーラウンドに駒を進め、スーパーラウンドでは宿敵・アメリカに敗れたものの、2勝1敗の2位で決勝に進出。決勝ではアメリカと再戦し、6-1で快勝！見事「リベンジ」を果たし、「3大会ぶり4回目」の優勝を飾った。

チームを代表して挨拶に立った女子TOP日本代表・石川恭子キャプテンは「栄えあるJ.D. LEAGUE AWARDSにお招きいただき、このように受賞選手・チーム関係者の皆さんと『ワールドカップ優勝』の喜びをともにできることを大変嬉しく思います。



チームを代表して挨拶に立った、石川恭子キャプテン

「世界の頂点」を競う舞台で楽な試合など一つもなく、本当に厳しい戦いの連続でしたが……日本協会をはじめとするチームスタッフのさまざまなサポート、日々切磋琢磨する仲間が存在が「励み」「刺激」となっており、最終的にチームが一つにまとまり、王座奪還を成し遂げることができました。ありがとうございます！とまず周囲へ感謝の想いを口にすると、「ワールドカップ優勝をつかみはしましたが、私たちのゴールはここではありません。2028年ロサンゼルスオリンピックで最後の『3大会連続の金メダル獲得』を最

大の目標に掲げ、もつともつと個々がレベルアップし、チーム力を高めていきますので、引き続き応援の程よろしくお願いします!!」と今後へ新たな決意を語り、自身の、そして女子TOP日本代表チームの「さらなる成長」を誓っていた。



これからも成長し続けて!!